

# 学校法人名古屋電気学園創立110周年記念事業

## 創立110周年シンボルマークデザイン決定しました

創立110周年記念事業の1つとして、シンボルマークデザインを募集したところ、愛知工業大学、愛知工業大学名電高等学校、愛知工業大学名電中学校からあわせて79点の独創性の高い素晴らしい作品が集まりました。

たくさんのご応募ありがとうございました。

最優秀賞は110周年のメインシンボルマークとして各種印刷物や広報媒体に、理事長賞はサブシンボルマークとして主に教職員の名刺に、それぞれ活用していく予定です。

使用期間は、2022年9月から111周年を迎える2023年12月までの期間とします。

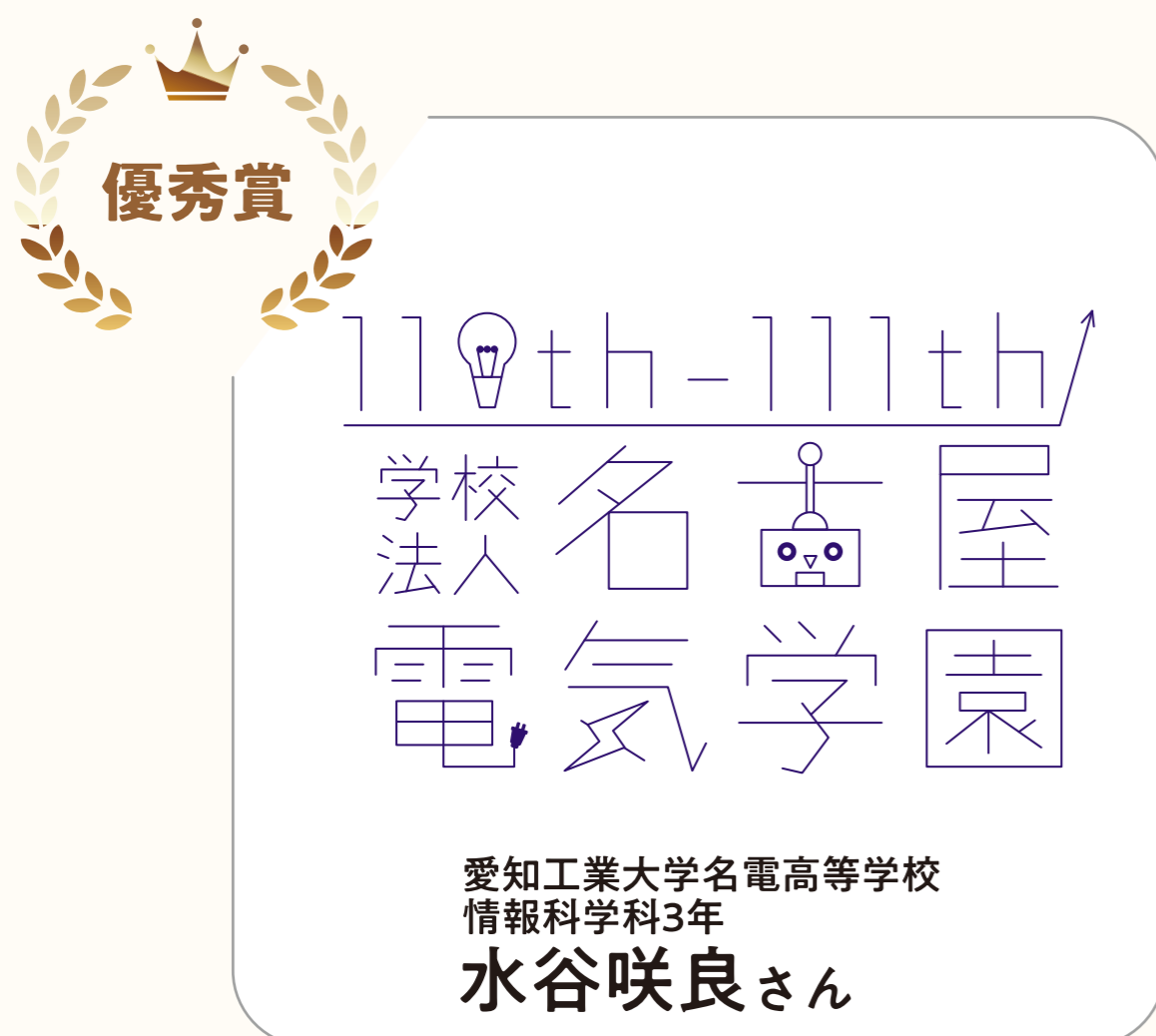


シンボルマークのテーマに「名古屋電気学園の魅力を再発掘」とあったため、普段あまり意識して見ることがない学園章に改めて目を向け、学園章と同じ、オームの法則をモチーフにしたデザインを取り入れました。もとの原形は保ちつつ、電気をイメージした雷のマークを合わせることで、現在の校風に沿った新しいデザインに仕上げています。

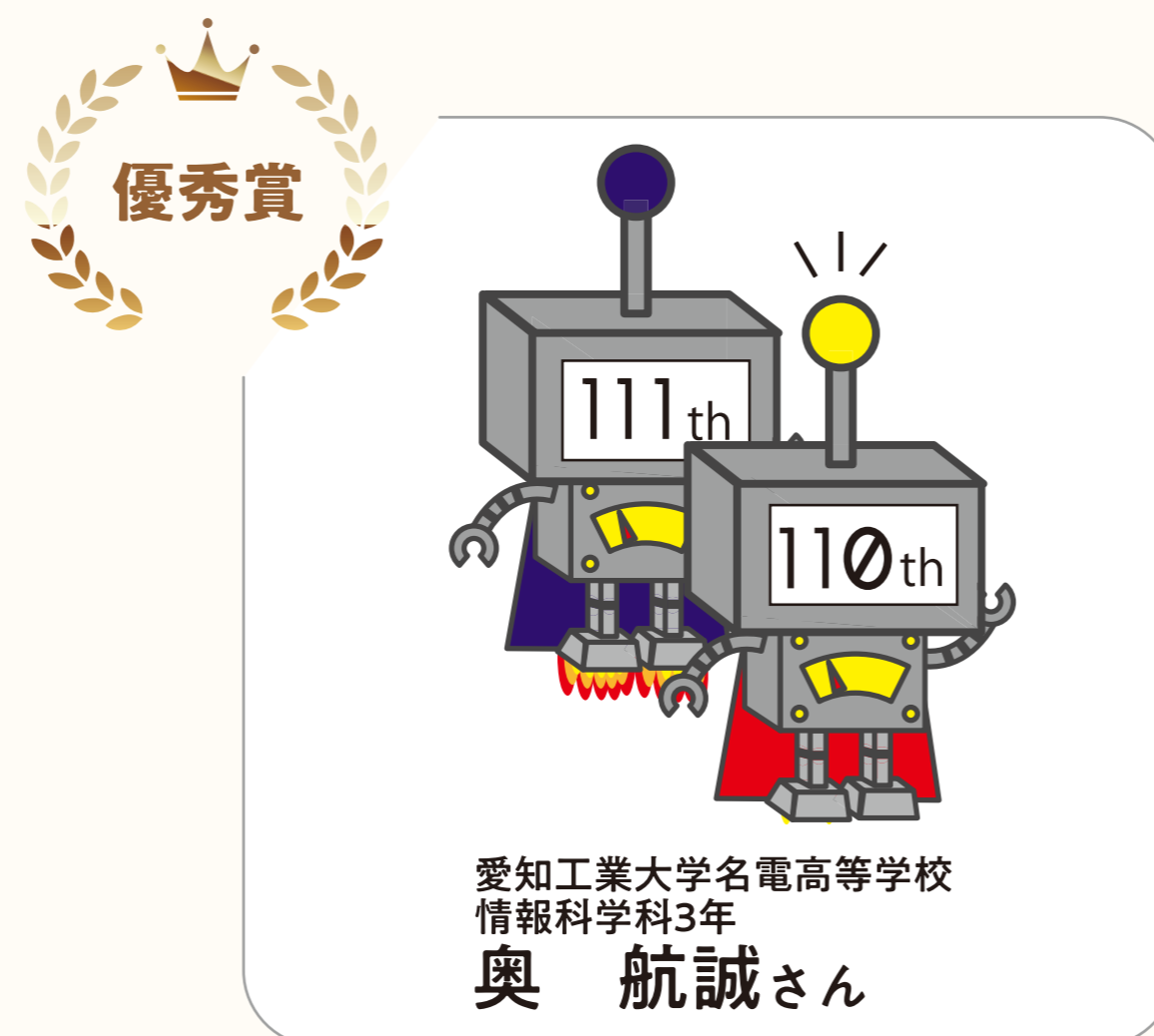
【テーマ】  
1912年の創立以来110年「ものづくり教育」を柱に創造力と豊かな人間性を兼ね備えた人材育成に努めてきた本学園の魅力を再発掘し、111年、120年、と更なる飛躍・発展をめざす。



電球には110年という長い歴史をもつ名古屋電気学園の飛躍、発展と学園から輩出された社会の第一線で活躍する人達のこれからの明るい未来を照らすという意味を、その前面にあるリボンには110周年を迎えたことへの祝福の意味を込めています。「110th-111th」は学園カラーの紫に映えるよう白文字にし、シンプルなデザインに仕上げました。



電気学園という理系の少し堅苦しい雰囲気にポップな可愛らしいイラストを追加することで、令和に続く新たな名古屋電気学園を再発掘できるのではないかと考えました。更なる飛躍を目指すことをイメージして矢印を上向きにして思いを込めました。全体はテキストと電気を連想させるモチーフを組み合わせ、見ていて楽しいと感じるデザインにしました。直線的なテキストにすることで洗練された技術力を表現しています。



名電は機械などの工業系のイメージがあったので、機械っぽくしてみました。最初は体の部分の方がデカかったけど、110thや111thを強調するために体をだいぶ小さくしました。111thの足についての炎はこれからの未来が勢いよく発展していくという願いをこめてつけました。



名古屋電気学園の校章が電気学で最も重要な関係式である「オームの法則」をモチーフにしていることから、電気に関わりのある回路図を合わせたデザインにしようと考えました。110周年は大きな記念の年であり、111周年へと繋ぐ部分を回路図のスイッチで表現し、その先も学園が発展し明るい未来になっていくよう願って111周年の先には長寿命の特徴をもつ豆電球を描きました。



110周年から111周年、またその先へ向け、飛躍すると言うテーマのもと飛躍の意味を込めて、羽根のデザインを入れた。また、ものづくりや学園の教育モットーの「創造と人間性」という観点から脳と電球を入れ、アイデアが浮かんでいるようなデザインにした。学園の創立記念のロゴとわかりやすくするため、学園のロゴや学園名を入れた。



校章でよく使われる花や草などの植物をなくし、丸や直線などの図形を使うことによって近未来っぽさを出しました。文字は少し読みにくく、不完全ですが、新しいものに変わろうとしているという思いを込めて「NEXT STAGE」にしました。色は明るい色を用いることによって目に留まりやすいものになりました。しかし、全て変えてしまったら意味がないと思ったので、名古屋電気学園の校章のオームの法則とリボンを以前と同じ色で使いました。



「名電が鳥のように大きく羽ばたきますように」という願いを込めて描きました。左上鳥の顔になっていて、右下はその同じ鳥の下半身を表しています。右上左下鳥の羽になっています。その羽には必須文字となっている「110th-111th」を使い、111周年まで羽ばたきますよという意味が込められています。そして、これ全体が鳥の絵になっています。中心には文字を書き目立たせています。電気学園と表しています。